

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2023年	12月	7日	(記入者)	西田 裕美
取材参加者	小倉	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：満願寺の木造薬師如来坐像				

所在地	奈良市横井3丁目181				
所有者(取材 対応者)名	横井町	***住職	連絡先 0742-62-0451		
		(個人情報守秘)	PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：満願寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	木造薬師如来坐像 1985(昭和60)年3月7日指定		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財 指定理由	光背裏に永禄4(西暦では1561)年の勧進沙門八嶋宗観の銘、頭部内に同5(西暦では1562)年の源三郎の銘があり、造立時期がわかる。源三郎は16世紀に奈良で活躍した宿院仏師の一人。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	お堂のすぐ横に住職の住まいがある。また、奈良市消防団の横井町ポンプ格納庫がお堂の向かいにあり、その後ろは池があり万一の時は初期消火にあたる。地域の消防団は市の消防の出初式や年末の夜警の際にポンプの確認をしている。	豊富な水が使えるので問題はない。
獣害対策	被害の有無、対策など 自治会から市に申請して、2023(令和5)年にお堂の枠木や壁の塗り替えの修理がなされた。それまではネズミやアライグマなどが来ていたが、修理後は全く来ていない。	記入者の感想 本尊には被害はなかったようで、修理により心配もなくなった。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	地域の中に薬師如来坐像を祀る尼講がある。およそ60才を過ぎた20人ぐらいの女性の方々が、春と秋の彼岸・お盆・十夜の年4回、薬師如来にお参りをされている。また平素から仏さまにお願いのある方がお堂の前まで手を合わせに来られる。堂内には、小さな穴を開ける道具である「きり」を十本ほど紐で繋いだものが吊り下げられていた。耳の病気の回復への願いが込められているという。本像が安置されている厨子は白木の細かい彫り物がある立派なもので、10年ほど前に洗いをかけて美しくなった。傷んでいたお堂の壁もこの時修繕した。この地域の穴栗神社では頭屋や役員を決めて秋祭りが盛大に行われ、人々の繋がりが保たれている。伝統を大切にしたい。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

木造薬師如来坐像は首が前傾しているだけで、他に悪いところは無く一度も修理されていないとのことであった。私たちが見る限り良好な状態で唇の朱の色もよくわかった。お堂の隣には横井の秋祭りの際のおみこしを収納する倉庫があり、2023(令和5)年に建て替えられた。満願寺を含め、消防団のポンプ格納庫、火の見櫓、みこしの保管庫などが一か所に集まっており、昔から自治会の所有となっている。地域は高齢化しているとのことだったが、これらの施設はきちんと整備されていると感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	12月	7日	(記入者)	西田 裕美
取材参加者	小倉	西田	宮本	本井	
取材対象先	奈良市：満願寺の木造薬師如来坐像				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 木造薬師如来坐像

薬師如来坐像(正面・斜め・頭部拡大)

お堂正面の右手前に文化財の説明板



文化財 (安置状態の全体写真)

お堂の向いのポンプ格納庫とその背後の池



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

頭部内・光背裏面・台座内に「永禄五年十月十三日 ならシュクキン 源三郎」「今度一乱炎上間奉加造之 横井南堂 奉造薬師 満願寺 佛師 宿院也 永禄四稔十月日 勧進沙門 八嶋宗観 敬白」等の墨書がある。大和に侵入した松永久秀らの戦乱がこの地まで及んだと考えられている。源三郎の特徴は明快な顔立ちで本像にもよく表れている。(奈良市指定文化財説明より)
戦火で喪失したお堂の本尊を宿院仏師である源三郎に作ってもらったと推測できる。

平安時代末に春日社から、横井の穴栗神社が勧請されており、現在も春日大社回廊内に祀られている。横井は春日社・興福寺の荘園となっていた。(『奈良市史』・『春日の神々への祈りの歴史』大東延和氏著 参照)
満願寺の元の寺は飛鳥期創立の横井廃寺とも言われている。寺伝によると小野妹子が遣隋使派遣の際、安全祈願をした寺である。横井廃寺は満願寺の東北800m程上方にあって、かつて四天王寺式の大伽藍跡があった。ご住職は、現在の満願寺前の火の見櫓の場所に、昔イチョウの木がありその根元に大きな礎石があったことを記憶されている。